

念ずれば花ひらく

荒尾市立荒尾第三中学校便り
令和4年4月12日(火)
第1号 文責:森川孝巳

入学式も無事に終え、全校生徒518名
(1年185名、2年163名、3年170名)、教職員
47名で令和4年度がスタートしました！
本年度もよろしくお願いします。



令和4年度 学校教育目標

「自立型人間の育成」

～本気の教育でなければ子どもは育たない～

自立型人間とは、社会的自立の基礎を身につけるとともに、夢や目標をもち、その実現に向けて、自ら具体的方法を考え、粘り強く努力し、最後までやりきる習慣を身につけた人のことです。中学生期は一番成長する時期であり、自分を変えていくことができる大切な時期です。自立型人間へと成長するために、「めざす生徒像」を、次の3つにしました。

①自ら学び、ともに高め合う生徒

②三中に誇りを持ち、自分や周りの人を大切にする生徒

③夢や目標に向かって挑戦し続ける生徒

協創自 校訓
力造主 訓

この「めざす生徒像」を意識して生活し、自分や周りの人のよさをたくさん見つけ、友達や先輩、先生方とともに、充実した楽しい中学校生活を送ってください。そして「みんなと出逢い、一緒に学ぶことができて本当によかった」と思えるような学校をみんなで作っていきましょう。

今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策をしっかりと行いながらの教育活動になりますが、保護者の皆さまのご協力を得ながら安全・安心な学校づくりに取り組むとともに、「めざす学校像」である①生徒一人一人に心の居場所のある学校、②活気と勢いのある学校、③温かみと潤いのある学校、④保護者や地域から信頼される学校づくりをめざしていきますので、ご理解とご協力を宜しくお願いします。



学校便り「念ずれば花ひらく」は、荒尾市出身の詩人、坂村真民さんの詩の一つで、私の大好きな言葉の一つです。

「念ずれば花ひらく」とは、ただ念じていれば思いが叶うという意味ではありません。「こうしたい」、「ああしたい」というその思いを叶えるためには、寝ても覚めても思い続けるくらいの強烈な思いで、一生懸命努力すれば道が開けてくるという意味です。

自分がやろうとしていることが、どう見ても不可能と思えるようなものであれば、「そんなことできるわけがない」と誰もが言います。しかし、そのような声に動かされることなく、「いや、それでも私は何としてもやりたいのだ」という信念を伴った思いが大事なのです。その上で、「では、どうすればやり抜くことができるか」と具体的な方法を考えていくのです。多くの人が、「こうしたい」と思っても、すぐ「このような難しい問題がある」と、できない理由を考え始めます。だから実現しないのです。

人間の思いというのは、我々の想像を超えて凄まじいパワーを秘めています。何か新しいこと、困難なことに取り組むときほど、「絶対実現させるんだ」という強い思いを持ち続け、一生懸命に努力し続けることが大切です。これは世界共通の成功の法則です。自分を信じて、これからも夢や目標に向かって粘り強く努力し続け、一つ一つ目標を達成していったほしいという願いを込めて、今年もこの学校便り名にしました。